



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

95.11.27 No.4300

千葉労働の底力発揮! 72hスト完徹!

四本の要、求獲得へ 闘いぬこう!

全ての組合員の皆さん！
勝浦運転区廃止攻撃粉碎！
一・一ダイ改阻止 11・28・12
・一七二時間ストへ全ての組合員が一丸となって突き進もう！
今次ストライキの要求と獲得すべき課題は次の四点である。

勝浦運転区廃止 攻撃を粉碎しよう

獲得すべき第一の課題は、勝浦運転区廃止攻撃粉碎へ向けて動労千葉七〇名が一丸となって闘いぬぐことである。

当局は、十一月二〇日から、勝浦支部組合員に対して、勝浦運転区廃止を前提とした配転の事前通知を強行した。内訳は、
鴨川運輸区 一八名(事務二、指導一)
京葉運輸区 一三名
千葉運輸区 八名
習志野運輸区 二名
幕張電車区 一二名
いすみ鉄道 二名

というものである。
組合員をバラバラにして勝浦支部の団結、動労千葉の団結を破壊しようという断じて許せない組織破壊攻撃である。
われわれは、このJR-JR総連一体となった不当労働行為に対して、明確な抗議の意思表示と、この現実を社会的に明らかにする。

かにするためにも、断固として七二時間ストライキを貫徹しなければならぬのである。そして、このストを貫徹することでこれまで以上に強固な団結をつくりあげることである。

強制配転者の原職 復帰をかちとる

獲得すべき第二の課題は、強制配転者の原職復帰のために闘いぬぐことである。

強制配転者への攻撃は、八六年七月の「人材活用センター」設置から来年で一〇年にも及ぶ年月になろうとしている。

しかし、この間当局は、直営店舗を次々と廃止しておきながら、原職である運転士や元の職場に戻そうとせず、駅・検修に再配転している。

一方では運転士の数が足りず、各運輸職場での欠員状況が続いているにもかかわらず、動労千葉所属の運転士や予科生は運転士に戻そうとせず、他方、新規採用者などを「促成栽培」で運転士に登用しているのである。こんな理不尽がどこにあるだろうか。揺らぎはじめた「JR体制」にさらにクサビを打ち込むストライキを貫徹しよう!

外房線二〇キロ運転 反対! 運輸保安確立

獲得すべき第三の課題は、外房線二〇キロ運転反対、運輸保安確立に向けてストライキを闘いぬぐことである。

JRの営利優先の姿勢は、もはや列車運行の安全すら確保できないほどになっていることはこの間の事故・故障を報じたマスコミ各紙をみれば明らかなおりでである。

そのうえで、今次のダイ改で外房線の二〇キロ運転は、無謀としか言いようのないものである。

十一月九日には、御宿―浪花間で道床交換した箇所が線路が陥没し、列車の徐行をかけるという事態が発生したり、その直後の十一日には、勝浦駅構内で本線と側線のクリアランスが不足しており、またしても徐行をかけるという事項が発生しているのが現実である。

そして、この事態に当局が殆ど関心すら示さないことが最も問題だということである。この姿勢が運輸保安を破壊することになるのである。この当局の姿勢を改めさせるためにも今回のストライキを闘いぬこう。

JRから不当労働 行為を根絶しよう

獲得すべき第四の課題は、JRから不当労働行為を根絶する闘いとして今次ストライキを貫徹することである。

JRによる不当労働行為は数を上げればキリがないほどである。日本でも有数の「優良企業」と

いわれながらこれほどの不当労働行為の救済命令を出されている企業は類例を見ないものである。

動労千葉に関する事件でもこれまで地労委から四件の勝利命令が出され、三件が勝利的に結審し、現在も一件が審理されている。

そして、勝浦運転区廃止の中止を求めて一〇月四日に新たに地労委に救済の申立てを行った。JRの行っている卑劣な不当労働行為の実態を社会的に明らかにし、不当労働行為の片棒を担ぐJR総連を解体・一掃し、JRから不当労働行為を根絶するために、ストライキを闘いぬかなければならないということである。

この四点の要求と課題の獲得へ向けて、動労千葉の底力を出して十一月二十八・二十九・三十の七十二時間ストを貫徹しよう!
十一月二十八日動労千葉総決起集会に結集しよう!

勝浦運転区廃止攻撃粉碎、解雇撤回強制配転粉碎

動労千葉総決起集会!

日時 十一月二十八日(火) 一八時~

場所 千葉市民会館・地下ホール

「一二月ダイ改」阻止へ向け全力で結集しよう!